

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣研究報告書

2010年 10月 31日

派遣者氏名（専門分野）	福島 邦久（ 西洋史学 ）
-------------	---------------

下記のとおり報告します。

記

研究テーマ	18世紀のオランダ東インド会社とイギリス東インド会社の比較研究 ・ 貴金属流通を中心としたアジア間貿易
-------	--

派遣期間

2010年 9月 1日 ～ 2010年 9月 10日

訪問研究機関	国	都市	訪問機関	受入研究者
	イギリス	ロンドン	British Library (大英図書館)	
	イギリス	ロンドン	The National Archives (国立公文書館)	
	イギリス	ロンドン	London School of Economics (LSE)	

派遣先で実施した研究内容

今回の派遣の目的は、British Library などのイギリスの図書館・公文書館におけるイギリス東インド会社関係史料の閲覧・収集であった。特に、二次文献で利用されている史料のうち、自身の研究に深く関係するものを直接確認するという活動を中心に行った。British Library 所蔵の India Office Records(インド局文書)に含まれているイギリス東インド会社の会計記録を調査することが最も大きな目的であったが、それに加えて The National Archives におけるイギリスの貿易統計の調査や、LSE の図書館における二次文献の収集も行った。ここでは、British Library 及び The National Archives における調査を中心に報告する。

まず、British Library では、India Office Records のうち、イギリス東インド会社がアジア各地に建設した商館の会計記録を閲覧した。今回の派遣では時間の都合上すべての商館の記録を閲覧することは難しかったため、イギリス東インド会社の活動が特に盛んだったインドのベンガル地方のものを中心に閲覧した。派遣者が閲覧した 18 世紀の史料には特に閲覧制限はかけられておらず、所定の手続きを経て閲覧を申し込めば問題なく原本を閲覧することができた。しかし、British Library では写真撮影が禁止されており、複写も厳しく規制されている上に高額であるため、閲覧した部分をパソコンに打ち込んで保存し持ち帰るという方法をとった。

The National Archives では、まず CUST と呼ばれる、イギリスとその植民地の輸出入統計を記録した文書を閲覧した。この文書はイギリスの毎年の貿易を相手地域別、商品別に記録した文書であり、このうちアジア貿易に関わる部分を閲覧した。原本は破損が激しく閲覧することができないがマイクロフィルム化されており、マイクロフィルムリーダーを利用して閲覧・プリントアウトが可能であった。また、ここではさらにイギリス大蔵省の公文書のうち、貿易記録の含まれているものを閲覧した。この文書は原本を閲覧することが可能であり、The National Archives では写真撮影が許可されているので、閲覧した史料を撮影して持ち帰ることができた。裏面の写真はその史料の写真である。

これらの調査に加えて、LSE の図書館では日本の図書館では閲覧できない二次文献史料の閲

覧・収集を行った。LSE の図書館では自由に文献の複写を行うことができるため、必要に応じて文献を複写し、持ち帰ることができた。

Item	Unit 1	Unit 2	Unit 3	Unit 4	Unit 5	Unit 6	Unit 7
Wool Sealing		2 1/2	4 1/2				
Wool Cones	25 d	95 d	50 d	180 d			30 d
Bays	Double	2 s		80 s	30 s	235 s	105 s
	Single	76	233 s	175 s	560 s	264 s	156 s
	Long	90	25	2			107
Cloths	Remnants					12 d	20 d
	Short	59 s	53 s				71 s
	Spanish	32		24 s			31 s
Cotton W. Plains	180 yards		190 yards				
Flanel	4120 yards		1700 yards				3320 yards
Kersies	1480 s	540 s	1000 s	1000 s	675 s	406 s	800 s
Northern Dye	Double	104		50	50	100	120
	Single	1655	1000 s	2177	290	1584	2040
Ponstomas	100		20		86		8 s
Stochingell	Wool			5	17 s	30	146
	Washed	1947 s	260				77
Stuffs		14320 d	7124 d	7688 d	3672 d	7170 d	7672 d
	with Silk	360	110	285 1/2		112	28730 d

研究の当初の目的・計画の達成状況、明らかにできた成果

当初の目的は、イギリス東インド会社の貿易統計を調査し、オランダ東インド会社の貿易統計と比較することで両東インド会社の貿易活動の特徴を浮かび上がらせるということであった。特に、オランダ東インド会社がイギリス東インド会社に比べ、アジアとヨーロッパを結ぶ貿易だけではなくアジア域内での貿易も盛んに行っており、アジア域内での貿易から多くの利益を得ていたためイギリスに比べ本国からアジアへの貴金属輸出を低く抑えることができたという点に注目している。そのため、イギリス東インド会社によるアジア域内での貿易活動と、対アジア貴金属輸出貿易の実態を明らかにすることが特に重要な目的であった。

調査が思っていたように進まないこともあったが、閲覧したいと考えていた史料の多くは閲覧することができた。現在それらの史料の分析を進めているが、イギリス東インド会社のアジアにおける活動を具体的な数値で示すデータも多く含まれており、これらのデータはオランダ東インド会社とイギリス東インド会社の違いを示すために利用できると考えている。

しかし、オランダ・イギリス両東インド会社の比較研究である以上、イギリス側のデータだけでは不十分であり、将来的には、オランダでオランダ東インド会社関係の文書を調査することが不可欠であると考えている。オランダで史料調査を行う機会があれば、今回の派遣で得た経験を生かして調査を行い、イギリス側のデータとの比較・分析を行ってアジア域内貿易というオランダ東インド会社の特徴を明らかにしたいと考えている。

派遣後の研究発表の予定

まず、今回の調査結果を来年1月提出の卒業論文に盛り込んで、卒業論文という形で発表することを目指している。また、来年度は大学院に進学する予定であるため、最終的には、オランダ側の史料調査結果と合わせて修士論文で文章化し、発表したいと考えている。